

日本細菌学会
平成 28 年評議員会議事録

●日時：平成 28 年 3 月 22 日（火曜日）16：00～18：00

●会場：大阪大学微生物病研究所 谷口記念講堂

1. 評議員会議長・副議長挨拶

中野宏幸評議員会議長、赤池孝章評議員会副議長より挨拶があった。また本評議員会への出席者が 51 名、委任状提出は 54 名であり、本評議員会が成立(評議員数 130 名の過半数)する旨説明があり、その後以下のように議長・副議長の指示に従い評議委員会が執り行われた。

2. 理事長挨拶

堀口理事長より、本会での細則・会則改訂を含めた審議への協力要請があった。

3. 第 89 回総会長挨拶

堀口総会長より、翌日から大阪国際協力センターで開催される第 89 回総会について、参加事前登録が例年通りであり、シンポジウムが 9、ワークショップが 23 と沢山のセッションを設けた旨説明があり、学会参加への協力要請があった。また大村智先生の市民公開講座への当日参加について説明があった。

4. 会務報告

(1) 会員の現況

堀口理事長より、スライドに基づき平成 28 年 2 月 29 日の時点での会員の現況報告ならびに説明が以下のようにあった(括弧内の数値は昨年評議員会（平成 27 年 3 月 17 日時点との比較)。名誉会員 39 名(+1 名)、正会員 1,890 名(-71 名)、学生会員 511 名(+20 名)、賛助会員 42 社(+13 社)。正会員の減少傾向は変わらないが、学生会員は徐々に増加している。賛助会員については、理事の努力により大幅に増加した(昨年度との比較)。このような状況を踏まえ、理事会では、本学会の運営方針について議論を進めていく。

(2) 各種部会活動

広報・HP 作成担当報告: 中川理事より以下の説明があった。昨年度より学会 HP の改訂作業を進めている。その中で HP 上に FB へのリンクを設けた。無料で利用できるのも、地方での研究会などの案内に、積極的に活用してほしい(案内希望者は、学会事務局早瀬氏か中川理事に依頼)。

選挙関連報告: 八木理事より以下の説明があった。電子選挙実施(選挙の完全電子化)に向け、検討を進めている。次回の評議員選挙から、電子選挙に移行できるよう、業者の選定なども含め実施に向けた準備を進めている。

賛助会員担当報告: 西川理事に代わり中川理事より、HP 中に賛助会員のバナー広告を増やしていく上で、業者に会員登録を働きかけるよう協力要請があった。

次世代教育・人材育成担当報告: 松下理事に代わり堀口理事長より、まず第 9 回細菌学若手コロッセウム(2015 年 11 月 23 日/ 代表世話人 鹿児島大学 小松澤先生)の開催報告があった。参加者 74 名、日本細菌学会以外の学会から若手が多数参加。日本細菌学会からは 30 万円を補助。第 10 回細菌学若手コロッセウム(代

表世話人 群馬大学 富田先生)が、群馬大学草津セミナーハウスで2016年7月31日-8月2日に開催される。例年どおりFBでアナウンスし、若手の参加発表を促す。若手コロッセウムは、独立した会だが、次世代教育の一環として、支援していく。運営には口を挟まないが、日本細菌学会にその成果をフィードバックしてもらうために、コロッセウムをベースとしたワークショップを日本細菌学会で継続して開催する。昨年度のコロッセウム参加者で非学会員の本学術総会への参加費は、無料とした。

教育資源発掘・保存担当報告: 松下理事に代わり堀口理事長より、日本細菌学会教育用映像集(動画)2016年版が完成した旨、報告があった。今回の総会にて頒布を一部3,000円にて開始する旨、報告があった。堀口理事長より、DVD作成が、松下担当理事をはじめ多くのボランティアによってなされたとの説明があり、携わっていただいた方には、学会から感謝状をだす旨、あわせて報告があった。またDVDは貴重な収入源でもあるので、DVDの積極的な購入を進めて欲しいと、協力要請があった。

用語集担当報告: 八木理事より、学会の使命としても用語集(便覧も含む)を適切な形で残して行くためにもWeb化に向け(その具体的な内容についても)、理事会で検討している旨、報告があった。またさまざまな意見を出して欲しいと、協力要請があった。

日韓微生物等担当報告: 桑野理事より以下の報告があった。5月12日、13日に第13回韓日国際微生物学シンポジウムが韓国慶州市で開催される。それに関連して学術振興会へ申請した二国間交流事業(第13回韓日国際微生物学シンポジウム開催に関わる渡航費が採択された。なお、申請額は120万円で、シンポジウムへの学会からの支援は不要となった。また本シンポジウムにおける若手研究者助成金の公募を2月24日付けで開始した。若手渡航助成費用は、7万円×10名分(助成申請締め切りは4月20日)。

(3) 名誉会員選考報告

神谷名誉会員選考委員長より、以下の報告があった。選考委員は6名。メール会議にて選考審議を進め、平成27年11月10日の会議で選考を行った。その結果、本学会の評議員から推薦された5名の候補者(内山竹彦氏、奥田克爾氏、島村忠勝氏、中村信一氏および本田武司氏)全員が、日本細菌学会名誉会員にふさわしいとの選考結果に至った。

(4) 学会賞選考経過報告

赤池学会賞選考委員長より、平成27年10月19日に開催された浅川賞、小林六造記念賞(以下、小林賞)黒屋奨学賞(以下、黒屋賞)の選考委員会の選考結果について以下の報告があった。浅川賞は池康嘉氏、小林賞は小嶋誠司氏、黒屋賞は井口純氏および日吉大貴氏。

(5) 第90回総会準備状況報告

赤池総会長より、以下の説明があった。仙台国際センター展示棟で開催され、会期は2017年3月19日(日)曜日から3月21日(火)曜日まで。テーマについては(設定するかも含め)、理事懇談会や第89回総会会期中に開催されるシンポジウム企画委員会での意見や今回の総会の流れ(大きく変えないように)を踏まえ検討するとともに、バランスのとれたプログラムにしていく。例年通りシンポジウム(10前後)とワークショップを開催する予定。特別講演は2つを予定(菌叢解析とインフラマソームの専門家をアメリカから招聘する方向で準備を進めている)。グローバル化を踏まえ、英語での発表セッションを増やしたい。理事会と評議員会は例年通り総会前日に東北大学片平キャンパスで、ICD講習会は初日15時ごろから、総会と浅川賞受賞公演は2日目の13時頃から、例年通りそれぞれ開催する予定。

(6) その他

堀口理事長より、法人化に向けた準備に関する案件について、以下の説明があった。理事長就任当初からの案件だったが、財政の健全化など多数の案件があったため、昨年は法人化については検討を見送った。財政健全化に向け先行きが見えてきたことから、本年から法人化に向け本格的な検討に入ることにした。具体的には、法人化に向けた法人化検討委員会(理事すべてが構成メンバー*作業部会委員は堀口理事長、川端理事、阿部理事、三宅評議員、大原評議員)を立ち上げることが理事会で承認された。また法人化に向け、協力要請があった。

以上の件について総合討論の時間が設けられたが、評議員からの質問はなかった。

5. 議事

(1) 第91回総会長の推薦

本年2月に開催された第1回理事会にて審議を行った結果、九州大学大学院医学研究院病態制御学講座細菌学分野教授の林 哲也先生を本評議員会に推挙する旨説明があった。審議の結果、承認された。その後、林次期総会長より、第91回日本細菌学会総会の開催に向け挨拶があった。

(2) 平成27年度収支決算について*(3)平成27年度監査報告も含む

関水理事より、資料に基づきまず決算案について以下の説明があった。収入の部では、会費収入は順調に執行された。雑収入は、病原体等安全取扱・管理指針(648冊)、DVD(第4版)(31枚)、DVD動画(21枚)の収入が伸びたため、執行率が125%になった。支出については、会誌出版費の発送費が、予算立てを安く見積もったために、執行率が171%となった。その他、ほぼすべて、前年度と同じような支出となった。単年度収支としては、230万円の黒字。ただし停止している事業があるので、引き続き学会の財政健全化に向け努力していく必要がある。ノーベル賞受賞前に大村智先生より600万円の寄付があり、小林六造記念賞基金とした。引き続き三宅監事より、この決算案を大原監事とともに平成27年1月21日に東京駅八重洲クラブにて監査した結果、適切に執行されていることが確認されたと、報告があった。神谷前理事長より、単年度決算額が黒字化したことに関して、堀口理事長と執行部への慰労の意が述べられた。審議の結果、本決算案は承認された。

(4) 平成28年度収支予算について

関水理事より、資料に基づき以下の説明があった。単年度収支では51万円の黒字になった。収入の部の会費収入額は、9割の収入を目指した額。その他は、例年にならい実情に合わせた予算額になっている。支出の部では、会費出版/発送費が、総会プログラムの電子化にともない、予算額の大幅な削減(85万円)となった。教育活動費は、DVD動画第2版作成費(残金)、若手コロッセウム支援費、さらに無料出張講演支援費を計上。日韓シンポジウム関係費は、若手研究者発表助成金として70万円を計上(公募にて10名を採択する予定)。学会賞小林賞は、大村先生から寄付金を充てるため減額予算となった。審議の結果、承認された。

(5) 会則・細則改訂について

堀口理事長より、資料に基づきまず支部会費徴収の廃止にともなう会則改訂に関して以下の説明があった。前年度収支決算では230万円の黒字となったが、支出を絞った結果であり、財政基盤は引き続き危ういものがある。会費収入は減少しており、財政基盤の強化をどのようにしていくのかは本学会の懸案事項。

そこで昨年来、支部長を介して一般会員の意見を募り審議した結果、支部会費の徴収を取りやめる一方で会費額 10,000 円は据え置き、本部に入る会費収入を増額することになった。それに伴い、第 10 章会計第 42 条の額を変更し(9,000 円から 10,000 円)、支部会費の徴収に関する条文を削除する。審議した結果、承認された。

引き続き堀口理事長より、学会賞の申し合わせ改訂に関して以下の説明があった。理事会が更新しても継続的に同じような基準で選考ができるように議論を進めてきた。その結果、第 5 章学会賞選考細則(第 43-45)を変更するに至った。具体的には第 42 条への「小林賞基金」の追加。第 44 条の条文を以下括弧内の文面に修正(条文の一部抜粋: ...また浅川賞受賞者と小林賞受賞者は受賞業績内容を日本細菌学雑誌または *Microbiology and Immunology* 誌に掲載する...)。第 45 条(5)項に以下の括弧内条文を追加(小林賞および黒屋賞の選考においては、本学会での活動状況も評価材料として考慮する。その基準については別途定める)。別途定められた基準については以下の説明があった(推薦要項に明記)。小林賞候補者は、応募時点で、日本細菌学会での活動期間が 8 年以上。黒屋賞候補者は、日本細菌学会での活動期間が 3 年以上さらに日本細菌学会または細菌学若手コロッセウムで 3 回以上筆頭演者として発表していること。活動期間が 8 年とすると、ニューカマーの妨げになる恐れはないのかとの、質問があった。林担当理事より、候補者の日本細菌学会での主体的な活動を期待するので、そのような期間(ただし 8 年がベストな期間かどうかは分からない)を設けることにした旨、回答があった。審議の結果、承認された。

その他、以下の質疑が行われた。支部会費の廃止に伴う、支部活動への本部の関わり(支部会支援)について教えて欲しいとの、質問があった。堀口理事長より、以下の説明があった。支援を希望する支部会は前年度の活動報告(支部総会プログラム、参加者人数、収支決算書など)を本部に提出し、それを踏まえ、理事会で審議し配分額(支援費)を決定する。財政健全化の一助として、総額 150-200 万円全てを 7 支部に再配分はしない。平成 29 年度からスタートすることになる。会則改訂に関連して、浅川賞と小林賞受賞者の *Microbiology and Immunology* 誌への寄稿は peer review されるのか、との質問があった。堀口理事長より、招待 review 枠があるので peer review されないと、回答があった。

6. 閉会